

事後評価報告書（日中研究交流）

1. 研究課題名：「都市における超高層建物の耐震性評価および地震被害抑制技術に関する研究」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：国立大学法人 東京工業大学建築物理研究センター 教授 笠井 和彦

2-2. 中国側研究代表者：同済大学 土木工程学院 教授 呂 西林

3. 総合評価： A

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

発表論文数、両国による共著の論文も多く、研究成果が挙げられている。

制振による耐震改修手法の有用性に対する日中の相互理解が促進されるとともに、中国側で実際に被災した構造物の制振補修を行い、そのデータに基づいて日本側の制振部材の改善案が実現したこと、東日本大震災における日本での地震観測から得た記録を共同研究に用い、両国の解析モデルに適用して制振効果を検討できたことなど、大きな相乗効果があった。

(2)交流成果の評価について

複数の共著論文を執筆して国際会議で発表し、国際会議での Special Session の提案を共同で行うなど、交流の成果があった。また、日本から中国、中国から日本の訪問等はバランス良く、活発に実施された。

本研究・交流の終了後も共同研究を継続しており、査読論文の投稿や制振設計法の講習会の中国での開催が予定されていること、日本側の教員が中国に着任し、両校の連携協定が結ばれたことなどから、今後、さらなる発展が期待できる。

(3)その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）

今後、この分野の中国でのニーズはますます大きくなると考えられる。国際会議プロシーディングなどに加えて、質の高い日中共著による論文の生産を期待したい。